

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園

1-1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入りその中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりのところを育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

1-2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上を目指すとともに、養成校としての役割と使命を持つ。
 - ①定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ②実習に来られる学生一人一人に寄り添いながら指導・育成を行う。
 - ③年度末に自己評価を行う。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ①園児の健康観察及び予防に努める
 - ②園全体における感染症対策の徹底
 - ③園全体における安全対策の徹底
- 3 地域の子育て支援拠点の充実
 - ・おやこ教室の開催日程や内容を地域に発信し、PRに努める。
 - ・園庭開放に来た保護者への相談・支援を行う。

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	各クラスの子どもたちの様子や出来事、保育の進め方などを職員全員で毎日話し合い、より良い保育が行えるように努めた。 保護者からの意見や相談も職員全員で共有できるように努めた。
②実習生の育成	A	指導方針を職員間で共有し、学生の個性に応じた適切な育成ができた。
2 ①園児の健康観察	A	「健康観察カード」に園児・保護者の体温を記入し毎日登園時に提出することで日々の健康観察を実施した。
②感染症対策	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員、園児、保護者、業者や学生のマスク着用。 園の入り口、職員室、靴箱前、トイレ、保育室、ホールなどに消毒液の設置。 昼食時は、子どもたちの間にパーテーションの設置。 手洗いの推進。 清掃の方による階段の手すり、扉などの随時消毒。 保育終了後、遊具や玩具、机やいすの消毒。
③安全対策	A	<ul style="list-style-type: none"> 業者による総合遊具の点検を行った。 正門に常時警備員を配置している。 必要に応じて短大の警備員とも連携をしている。 東住吉警察署の方による職員向けの防犯訓練を実施した。
3 地域の連携と子育て支援の充実	B	園庭開放や未就園児おやこ教室を開催した。 東住吉区役所「ラビット隊」の交通安全指導や不審者対応の教室を開催。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 コロナの感染状況が変わる中、状況に合わせた形での方法を模索し、日々の保育や行事を見直す良いきっかけになったと思う。 保護者の方が参加できる行事や保育参観は、感染対策の協力を求めながら行った。 担任以外の職員の挨拶を含め、園児の様子を伝えるなど保護者とのコミュニケーションを取り、安心や信頼につながるよう努めた。 クラスだよりやHPで、園での子どもたちの様子を知らせるように努めた。 実習生に対し、一人一人と丁寧に向き合いながら適切な指導を行い、育成目標に達することができたのではないかと思う。 おやこ教室や園庭開放の情報を、HPやタウン誌の掲載以外にも周知させる必要性を感じた。 未就園児と保育者との交流は持つことが出来たが、在園児との交流の場がほとんど持てずに終わった。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	毎月避難訓練を行い、緊急時における対処法について、今後も職員間で共通認識を持ち理解を深めていく。 園庭の環境整備（遊具の劣化など）の点検をしっかりと行う。
園行事等の精選	引き続き、子どもたちにとって良い方法で行事を行えるよう考えていく。
園のPRと園児数の確保	ホームページへの写真掲載や、情報公開を引き続き行う。 タウン誌への掲載と、更なる周知活動として、地域の会館などへ案内を配布する。 地域の方が気軽に幼稚園に足を運んでいただけるよう創意工夫を行う。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 保育室内のトイレ設置や、短大隣接により学生との関わりがあり、人手が多く、見守られているという他園にはない魅力がある。
- 年齢に合った遊び、それに対する教育のスキル・子どもの気持ちを大切にしているので、一人一人の心が育っている。
- 若い先生があまりいない所が少し心配ではあるが、先生がベテランぞろいで安心でき、良い伝統を続けてほしい。
- 幼児教育の専門施設の要である教育環境・教育目標を十分に活かし、実践されているが、より充実したものにするためには、特に重点的に取り組んだことや重点目標の課題を文章化することが必要。
- 常にオープンな幼稚園で、学生さんとの関わりがあり、子どもたちはすぐに打ち解ける。
- 年長さんは、三歳児・四歳児からの憧れの的になっていて、先輩を憧れることはとても大事なことで、この縦のつながりは変えてはならないことである。

7. 公開保育について

実施日時	令和4年11月14日（月） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園 保育室
保育者	あやめ組（年中）担当教諭
テーマ	・カードあそびをしながら色々な仕事に興味を持つ ・友だちとやりとりをしながらお店屋さんごっこを楽しむ
指導助言者	大阪芸術大学短期大学部 保育学科 准教授
参加者	大阪府幼稚園・こども園園長、教諭、保護者
総評	普段から子どもを見ていないとできない細かい配慮が見られました。とても内容が詰まっていたと思います。子どもがイメージしやすい食べ物屋さんを設定することで、無理なく楽しめる自然な保育だったと思います。今日の食べ物カードを用いて、友達と協力して行うなど、まだまだ楽しく展開していけるのではと感じたので、お店屋さんごっこの回数を重ね、やりとりの幅が広がり、さらに遊びが発展していくことを期待したいと思いました。伸びようとしている子どもに適切な内容の活動だったと思います。